

- (1) 単元名 PROGRAM 3-1「What Can We do for Others?」Sunshine English Course 2 (開隆堂)
- (2) 本時のねらい
  - ・意見や考えを英語で伝えるときの構文や単語を共有することができる
- (3) 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント
導入	・本時の活動の確認	・前時にチャリティーイベントを調べ【課題設定】、全校で取り組みたいものを一つ、班ごとに選んでいる。また、そのイベントの利点や不利な点を考えている【情報収集】。
展開	・グループ(3~4人)でプレゼンテーションの準備をする。 【整理・分析】 (1) 利点や不利な点を表現するときに使えそうな構文や単語を挙げて、共有する。 (2) 自グループの利点と不利な点をそれぞれ英訳する。	・教師への質問や辞書等に頼るのではなく、自分の知識を活用・共有して英文を作成するよう助言する。 ・既習の構文での言いかえを助言する。 例) 多くの人に来て混雑して、安全確保が難しい。 Many people <u>will</u> come. We <u>are worried about</u> their safety. ※.....は既習の表現
まとめ	・本時の活動の成果の確認 ・次回の活動の連絡	・各班のデジタル・ワークシートを投影して情報を共有する。 ・次回はプレゼンテーションの練習【まとめ・表現】。

**Advantages**

- ・We can get a lot of money because Sky Peace is famous.
- ・The location is free.

**Disadvantages**

- ・It cost money to invite famous artists.
- ・I don't know how they come here.

【ICT活用のポイント】

本時は「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習活動のうち、「整理・分析」にあたる授業である。

「全校で取り組むチャリティーイベントを決める」という課題設定から、「どのようなイベントがあるか、情報を収集」し、「グループに分かれてイベントを紹介しつつ、それぞれの利点と不利な点を挙げて分析する」授業の2時間目である。ねらいを知識の

共有とすることで、ICT機器の利点を生かした授業となるように工夫した。

各班にデジタル・ワークシートを配布し、タブレットPC上で記入する。IWBに投影することで、効率よく他の班との情報共有ができる。

次回の授業では、スライドを提示しながらグループごとに発表を行う「まとめ・表現」の時間とする。

【実践を振り返って】

英語科では単に文構造や語彙等の知識を身につけるだけでなく、教科書の題材をもとに国際理解・異文化理解を深めていくことも必要である。その際に、情報を収集したり、まとめて発表したりすることとICT機器との親和性は高いことは容易に想像がつくが、情報の「整理・分析」となると紙上による作業の方がやりやすいのではないかという考えもある。そこで今回は、分析した結果を整理し、①英訳するために使える構文の共有、②英語にできない(専門性の高い)語彙を簡潔な日本語に直し、自分の知っている英語で伝えるためのアイデアの共有の時間とした。

アイデアの共有は、紙を使うとグループ内が限界だったり、黒板に掲示しても見えにくかったりする。デジタル・ホワイトボードに投影すれば、全体での共有が可能で、必要であれば拡大表示をすることもできる。課題としては、画面への入力に時間がかかり、手書き入力モードにするとデジタル・ワークシート上に十分なスペースがないということが挙げられる。これはキーボード入力を行うことで解決できる。